

わたしの蔵出し日記

市民リポーターが半田市の魅力を紹介

2022年度市民リポーター

いしかわ ゆうこ
石川 結子さん

半田市在住歴：6年

家族：花農家の夫と娘2人(5歳と1歳)

いまやりたいこと：一人旅



第6回 地元の方々の熱意のたまもの『蛍まつり』に大興奮



子どもから大人まで楽しめる多様なイベントを開催しているのも半田市の魅力の一つ。今回は6月に新美南吉記念館であった「南吉さんの蛍まつり」について、私は諸事情で参加できなかったため、家族への聞き取りを基にレポートします。

夕暮れ前に着いたので、まずは屋外を散策。続いて無料開放された記念館内で、子どもたちはあちこちに顔をのぞかせるごんを探したり、短冊に願いを書いて笹に飾ったりして過ごしました。

外が暗闇に包まれると、いよいよ観賞会場となる記念館奥の湿地帯へ。ヘイケボタルが舞い始めると、初めて見る光る虫に2人の娘は「いたいた〜」と大興奮。追いかけてたり素手で捕まえてみたりして、幻想的なひとときを楽しんでいました。

主催した観光協会によると、田んぼ環境の変化で蛍は一時、姿を消したものの、岩滑の“蛍おじさん”こと土本修二さんが「みんなに見てもらいたい」と自宅で幼虫の飼育を開始。かつて乱舞したこの湿地帯でも再び自生させようと、土本さんを中心に地元の人たちが9年前から、放流に加え水路などの整備を始めたんだとか。娘たちが目にしたのは当日放たれた成虫に加え、自生しているものも含むといいます。地元の人々の熱意が生んだイベントだったんですね。

さて、帰宅後も興奮冷めやらぬ長女に「蛍はどうして光るのかな」と聞いてみると、「お友達を楽しませるためじゃない?」とニッコリ。正解じゃないかもしれないけど、親的には大正解! ステキな思い出をたくさんもらった初夏の体験イベントでした。



▲屋外を散策する娘たち。「キツネさんがいるね〜」



▲帰宅後に長女が描いた蛍。次女の落書きはご愛嬌

みなさんの(声)を聞かせてください アンケート

Q1 今号でよかった内容や写真があれば教えてください。

Q2 今号を読んだことがきっかけで行動したこと、または、したいことはありましたか。

Q3 市報で取り上げてほしい内容や企画、広報に関するご意見・ご感想などありましたらお聞かせください。

回答方法

下記 QR コードから回答もしくは、住所、氏名、年齢、アンケートを書いて、はがきまたはEメールでご送付ください。

あて先

〒475-8666

東洋町2-1

企画課

Eメール

kouhou@city.handa.lg.jp



10月1日に半田市が生まれて85年を迎えます。周年の話題を聞くに高校時代の野球部の恩師によく言われた「崩れるのは瞬間、積み上げることが何より難しい」という言葉を思い出します。

半田市も先人の方々のご尽力や積み重ねによって今の半田市があるのだと感じるとともに、自分自身も未来の半田市のためにできることを頑張ろうと改めて思いました。

今月号は、市制85周年記念として半田市の歴史を写真で紹介する『はんだアルバム』を作成しました。特集を作成するなかで、写真のポーズや服装、髪型などにその時代の時代を感じ、思わず楽しくなってしまう。皆さんも半田市の歴史を感じながら、楽しんで見ていただければ嬉しいです。

(倉野)

編集後記